

令和6年度第3回柳井警察署協議会会議録

開催日時		令和7年2月5日（水） 午後2時00分から午後3時35分までの間
開催場所		柳井警察署 講堂
出席者	委員	田代委員、川寄委員、福永委員、柳澤委員、平井委員、財満委員、 秋枝委員、西山委員、柏谷委員 計 9名
	警察署	署長、副署長、主幹、警務課長、生活安全課長、 地域第一兼第二課長、地域第三課長、刑事課長、交通課長、 警備課長 計 10名
議題		1 警察業務の推進状況 2 デジタル化の効果が実感できる運転免許行政の推進
1 会長挨拶 令和6年度第3回柳井警察署協議会の開催に当たり、本日は委員全員の皆様に出席いただき感謝している。 さて、最近はこの冬最強と言われる寒波に襲われ、積雪やそれに伴う交通事故のニュースが多く、気候が温暖な柳井警察署管内に住んでいる私たちには無縁であるが、気の毒に感じているところである。 今回の諮問事項は、「デジタル化の効果が実感できる運転免許行政の推進」ということで、私たちにも身近な話題であるので、積極的に意見を述べていただき、警察活動に役立ててもらいたいと考えている。 2 署長挨拶 （省略） 3 業務説明 (1) 犯罪から住民を守る対策の推進状況 ア 刑法犯の認知件数 イ うそ電話詐欺等の認知状況 ウ 犯罪抑止に向けた主な取組 エ 刑法犯の検挙状況		

オ 主な検挙事件

(2) 安全な交通を確保するための取組

ア 交通事故の発生状況

イ 交通事故抑止に向けた主な取組

(3) 地域住民の安全・安心確保のための取組

ア 通報の受理状況

イ 警察安全相談の受理状況

4 諮問事項の質疑応答

(委員)

山口県内における自動車運転免許証の保有者は減少傾向にあるが、高齢者の保有数は逆に増加している。大きな事故を起こすのは高齢者が比較的多いと思うので、そのようなことになる前に自主返納を促すのは賛成である。マイナンバーカードと健康保険証の一体化が進む中、運転免許証も一体化となれば、服用している薬の種類などから運転に適さない方を抽出することができ、本人やその家族に返納を促すことができるのではないか。

(委員)

周防大島町や平生町のような田舎に居住している場合、交通機関の便が悪く、買物に行くことすら困難である。病院へ行くにも車が必要であり、家族等に送迎が頼める環境でなければ返納は難しいと思う。

(委員)

マイナンバーカードの保有率は70～80%と聞いている。100%に至らないのは「申請が面倒」「情報流出が怖い」などの理由であるが、今後、運転免許証との一体化を進めるのであれば、一本化するしかないと考える。例えばICチップがないと車が始動しないというシステムができないか。

一方で、紛失時の再発行に時間がかかるなど、改善すべき問題点も多い。

(委員)

マイナンバーカードと一体化させた際に、運転免許証のデータが移行されているか確認できるのか。検問等でマイナンバーカードを差し出された場合、警察官がすぐに免許情報を確認することが可能なのか。

(委員)

マイナンバーカードを利用しようとした際に、「機械がないのでまだ使えません。」と断られたことがある。これから免許証と一体化されたマイナンバーカードを差し出された場合、警察官が困るのではないか。確認するための機械が導入されると思うが、先に導入しておかなければ意味がない。

(交通課長)

運転免許証とマイナンバーカードが一体化されても券面上は全く変わらないことから、ただただで免許情報を確認することはできないため、今後、現場で確認できる装備を取り入れる予定である。

また、不携帯の場合には、他の身分証等も参考に本人確認を行い、免許取得の有

無等を確認することになる。

(委員)

例えば米軍基地に入る場合、身分証明のために自動車運転免許証か健康保険証が必要となる。米国はマイナンバーカードを認めていないので身分証として利用することができず、そうした人たちは両方を持つことになる。一本化には、まだ難しい点もあると考える。

(交通課長)

3月までにはマイナアプリで免許情報が出せるようになっており、一本化しても本人が確認することはできる。なお、警察官は、相手方がマイナンバーカードと運転免許証の両方を持っているのか、あるいは一本化しているのか確認することができる。

(委員)

自動申請受付機やマイナ免許証を導入することで、警察署にメリットはあるのか。

(交通課長)

自動申請受付機は警察庁のシステムと連動しており、これまで更新者の住所変更の有無等を確認しなければならなかったところ、自動印字で申請書が作成されることにより申請者本人及び職員の業務が減少となる。また、マイナ免許証の普及が進めば、住所変更等の手続自体が減少することから、職員の事務負担も減少することになる。

(委員)

10月にオンライン講習を受けて免許証を更新したが、シンプルで、デジタルに長けていない方でも可能だと感じた。これまでの更新時の手間を考えると、デジタル化は推進すべきだと思う。

今後は、高齢者対策として「75歳までに返納」などのルールも必要となってくるのではないかと。自動申請受付機の画面に「返納」のボタンがあればいいと思う。

(委員)

デジタル化が進むのは分かるが、高齢者にも分かりやすく説明してほしい。

(委員)

環境が整っていないためオンライン講習ができない場合は、どのように更新するのか。

また、運転免許証を一体化する、別々に持つなどのパターンがあるが、どれを選択すべきなのか。

(交通課長)

オンライン講習は、マイナ免許証を所持している方で、講習区分が優良又は一般の方に限られる。その他の方は警察署等に赴いて講習を受け、更新手続きを行うこととなる。オンライン講習を受けられないマイナ免許証所持者も、これまでどおり警察署等に赴くと講習を受けることができる。更新時の講習手数料も、通常の優良講習であれば500円のところ、オンライン講習では200円と低めに設定されている。

なお、現在のオンライン講習は2月28日に終わり、3月24日からはマイナ免許証の方のみが対象となる。

(委員)

マイナ免許証を紛失した場合、再発行に日数や手数料がかかるがあるが、それであれば別々に所持していた方がよいのではないかな。

また、マイナ免許証を読み取る機械に不具合があった場合には、どのように対応するのか。

(交通課長)

再発行の手数料は、所持形態により異なるが、一体化されているマイナ免許証が一番低く、また更新時の手数料も低く設定されている。

マイナ免許証の申請は、当面、制度の運用が開始される3月24日から総合交通センターのみで始まるが、総合交通センターがシステムダウンした場合には、後日対応することになる。警察署で不具合が発生した場合には、紙ベースで手続を行う。申請者には、警察署に再度赴くなどの負担をかけることになるが、このようなトラブルにも対処できるようマニュアルを用意して備えている。

(署長)

マイナ免許証は3月から運用開始となるが、これまでどおり公安委員会が発行していたものが変わるわけではない。3パターンのメリット・デメリットについては、従来の免許証は今までどおりで安心感がある、マイナ免許証は2つ持たなくてよいほか、優良か一般区分であればオンライン講習を受けることができる、両方を所持する場合はデメリットとして費用が高くなるなどで、各個人の生活パターンなどから選択していただければと思う。警察側が、どれが良いと決めるべきものではない。

また、個人情報の管理が厳格になっており、様々な情報が記録されているマイナンバーカードであっても、警察署や公安委員会が使える情報は免許情報のみで、例えば疾病に関する情報は分からない。

将来は分からないが、今はこれまでと同様に運転免許証の身分証明書としての価値は高い。これが見られなくなるのはデメリットであるが、アプリで確認することはできる。

(委員)

運転免許証の再交付は、どこでできるのか。日数がかかるがあるが、この間、車両を運転することはできないのか。

(交通課長)

総合交通センターでの手続は平日のみで、受付時間内に来訪してもらえば即日交付される。警察署での手続も平日のみであるが、警察署では交付までに2週間程度を要する。車両を運転する際は自動車運転免許証の携帯が必要であるため、紛失している間は免許証不携帯の交通違反となるため運転できない。

5 配付資料

業務説明資料（警察署作成）

6 その他

(1) 監察関係事案説明

令和6年12月及び令和7年1月における警察職員の懲戒処分事案について説明した。

(2) 次回日程

次回警察署協議会は令和7年6月頃に開催予定とした。